

令和2年度 法人運営目標・指針



法人運営目標

住み慣れた地域で、人生の最後まで、自分らしく尊厳を持って生活できるように、法人の機能を最大限に発揮する。そのためには、施設および在宅サービスが結びつき、各専門職が目標に向かって協働することが求められる。例えば、施設入所時より施設ケアマネと在宅のケアマネジャーが関わり、在宅復帰ならびにその後の介護サービスを切れ目なく提供する、等である。また、要介護度が高くなり、在宅での生活が困難になった場合でも、他施設サービスに移行するのではなく、最後まで自分のできることは自分で行えるようにサービスを提供していく。さらに、新型コロナウイルス感染で、人との交流や外出が制限されるなか、安全で充実した生活を送って頂くには、どうすれば良いかを考え、実行していく。最後に、アップル学園前大学校（仮）の開講の準備を行い、地域づくりを進めていく。



法人運営指針

1. 在宅復帰・在宅支援機能を最大限発揮させるために、部署間及び専門職間の効果的な連携強化・協働策を検討・実施する。
2. 新型コロナウイルス感染症による行動制限の中でも、安全で安心な生活を支援する。
 - (1) 感染拡大防止対策を継続的に実施する。
なお、社内外の会議・研修についてはweb化を進め、3密を回避して行える体制を構築する等、ICTを活用した感染予防対策も推進する。
 - (2) 面会禁止のために、ご入所者・ご家族はストレスを感じている方も多い。ストレス軽減策を検討・実施する。
 - (3) 外出自粛のため、通所サービスは利用者が減少している。外出自粛が長期化し、自宅で過ごす高齢者の心身の健康への影響が懸念される。人との交流が少なくなっていて、ストレスを感じる人も少なくない。これらの対応策を検討・実施する。
 - (4) その他のサービスにおいても、他者との交流を避けるために、サービス利用を自粛される方もおられる。同様にこれらの方に対する対応策を検討・実施する。
 - (5) その他、利用者が安全で充実した生活を送って頂くための対応策を検討・実施する。
3. 新型コロナウイルスの再流行に備えて、BCP（事業継続計画）を経営本部と所属長が協力して作成する。BCPにより、必要な備品・消耗品等の備蓄や、職員教育を進める。
 4. サービスの質の向上を図るとともに、多様なニーズへの対応を進める。
 5. 新型コロナウイルス終息後の高齢者や人々の意識の変化を迅速に捉えまたは予想し、環境の変化への適応を進めていく。
 6. アップル学園前大学校（仮称）の開設準備を進める。

